

# ザ・ウォールII

国土交通省認定品



## 特長

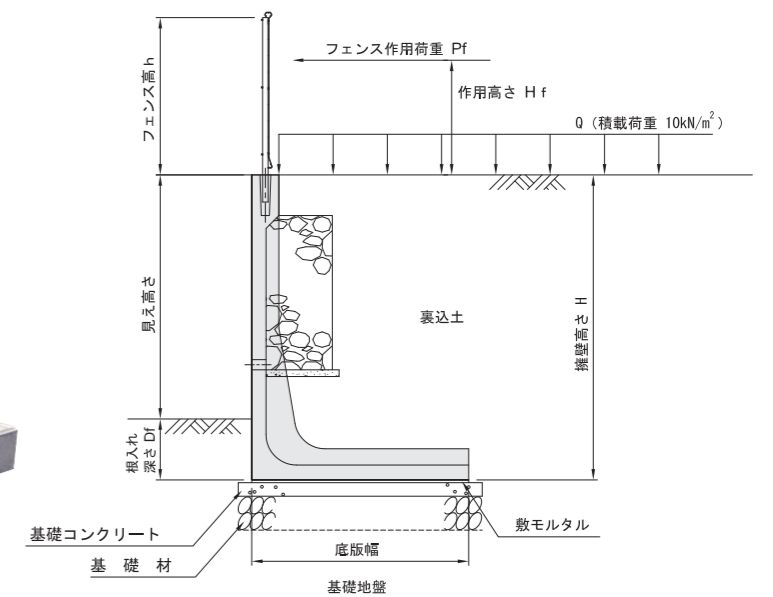
ザ・ウォールII（大地震対応型）は、個人の財産である宅地を安心安全に構築できる宅地用L型擁壁で、大規模地震動の水平震度 $kh=0.25$ に対応しています。  
また、宅地用認定擁壁の中で唯一壁面を垂直に設置することができるため、最大限、土地の有効利用が可能です。

- 1 国土交通大臣認定擁壁では全国でトップシェアです。
- 2 国土交通大臣認定（宅地造成等規制法施行令第14条）を取得しているため、認定条件内であれば設計・計算等の手間が不要で、計画から認可までの期間を短縮でき、手続きも簡素化できます。
- 3 宅地造成等規制法施行令第19条に規定されている大規模地震動に対応しています。
- 4 直線部及びコーナー部製品共に、大地震対応の耐震設計を考慮しています。
- 5 前面が垂直なので、敷地境界線まで土地を最大限有効に使用できます。
- 6 コーナー部は $90^\circ \leq \theta < 180^\circ$ の任意の角度で、一体で製造できます。
- 7 認定条件の範囲で擁壁の天端にフェンスを取り付けることが可能です。
- 8 前面に表面化粧を施すことができます。（厚さ50mmまで。）
- 9 直線部製品のみ擁壁長を1.0mまで、短縮することができます。

## ● 設計条件

項目	長期	短期	
	常時	フェンス荷重時	大地震時
地表面の勾配	LEVEL		
積載荷重（積雪荷重）	Q = 10.0kN/m <sup>2</sup> （積雪荷重を含む）		
裏込土の内部摩擦角	$\phi = 30^\circ$ 以上 または $\phi = 25^\circ$ 以上30°未満		
裏込土の単位体積重量	$\gamma_t = 16 \sim 19\text{kN/m}^3$		
基礎地盤の内部摩擦角	$\phi = 30^\circ$ 以上 または $\phi = 25^\circ$ 以上30°未満		
滑動摩擦係数	$\mu \leq 0.6$ の場合 $\mu = \tan\phi$ $\mu > 0.6$ の場合 $\mu = 0.6$ $\phi = 30^\circ$ の場合 $\mu = 0.577$ $\phi = 25^\circ$ の場合 $\mu = 0.466$		
必要根入れ深さ Df 岩盤に設置する場合を除く	$\phi = 30^\circ$ 以上 : Df = 35cm以上かつ見え高さの15 / 100以上 $\phi = 25^\circ$ 以上30°未満 : Df = 45cm以上かつ見え高さの20 / 100以上		
安定計算用の壁面摩擦角（主働土圧）	$\delta = \phi/2$		$\delta = \phi$
安定計算用の壁面摩擦角（受働土圧）	—		$\delta = 0$
断面計算用の壁面摩擦角（主働土圧）	$\delta = \phi/2$		
地域係数 ※1	—	—	1.0
設計水平震度	—	—	kh=0.250
設計鉛直震度	—	—	kv=0
土圧の算定式	クーロン式	クーロン式	物部・岡部の式
コンクリートの単位体積重量	$\gamma_c = 24.0\text{kN/m}^3$		
設置可能フェンス高	h=2.00m以下 ※2		
フェンス荷重	作用高さ Hf = 1.10m 作用荷重 Pf = 1.0kN/m 及び、建設省告示第1454号による風荷重		
荷重の組合せ	自重	○	○
	積載荷重	○	○
	常時主働土圧	○	—
	地震時主働土圧	—	○
	慣性力	—	○
	地震時受働土圧	—	○
フェンス荷重	—	○	—

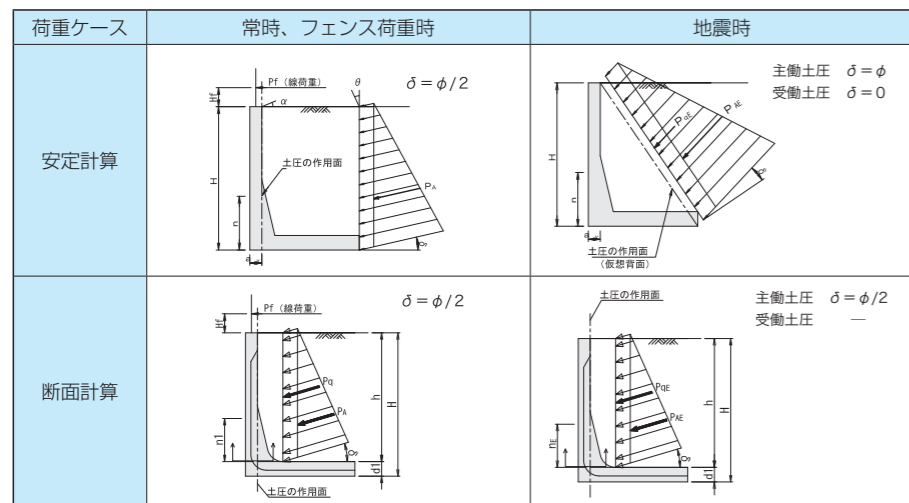
※1 建築基準法施行令第88条1項による地域係数  
※2 見付率により異なります。



# ザ・ウォールII

## ● 土圧及び土圧の作用面

- 常時（常時） (主動土圧：Coulomb（クーロン）土圧式)
- フェンス荷重時（短期） (主動土圧：Coulomb（クーロン）土圧式)
- 大地震時（短期） (主動土圧（受働土圧）：物部・岡部の式)



仮想背面（土圧の作用面）の位置及び壁面摩擦角  $\delta$  は左表による。

## ● 安全率

項目	長期		短期	
	常時	フェンス荷重時	フェンス荷重時	大地震時
安定計算	地盤反力度	基礎地盤の長期許容応力度以下 (極限支持力度 1/3以下)	基礎地盤の短期許容応力度以下 (極限支持力度 2/3以下)	基礎地盤の 極限支持力度以下
	転倒	1.5以上	—	1.0以上
	滑動	1.5以上	—	1.0以上
部材計算	モーメントM	1.0以上	—	1.0以上
	せん断力Q	1.0以上	—	1.0以上
	付着	—	—	1.0以上
	ひび割れ	1.0以上	—	—

終局時部材計算				
終局	モーメントM	—	3.0以上	—
	付着割裂	—	1.0以上	—

## ● 部材計算許容応力度

(N/mm<sup>2</sup>)

コンクリート		長期	短期	終局
設計基準強度 F <sub>c</sub> =30 F <sub>c</sub> =40	圧縮	10.0	20.0	—
	せん断	0.79	1.185	—
	付着	1.70 [2.55]	2.55 [3.82]	—
	付着割裂	—	—	1.32

※ 付着欄の [ ] 外は上端筋、[ ] 内はその他の鉄筋を示す

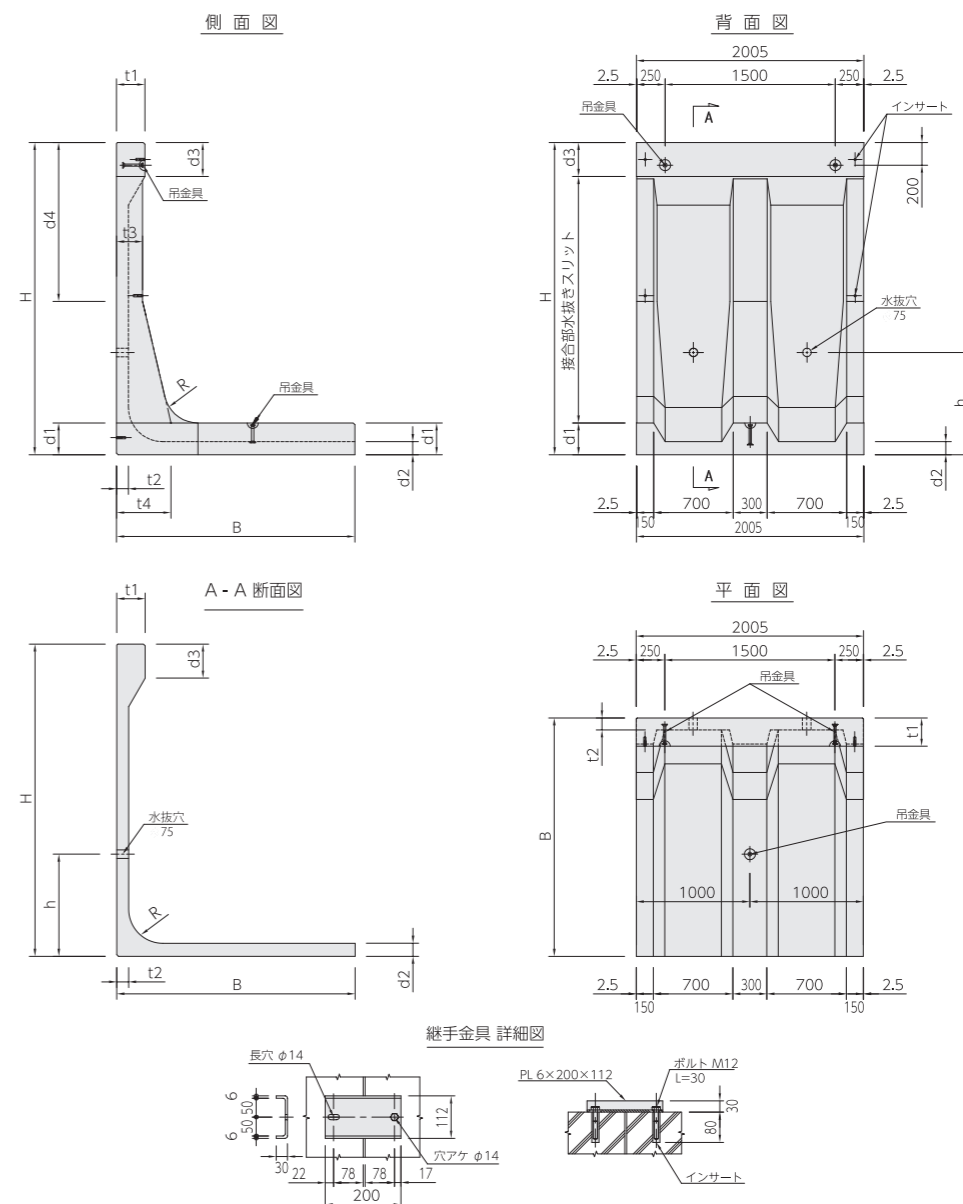
(N/mm<sup>2</sup>)

鉄筋		長期	短期	終局
SD295A SD345	圧縮	195	295	—
	引張	195	295	395 (注)
	せん断補強	195	295	—

(注) (公)全国宅地擁壁技術協会基準値

## 標準製品

### ● 形状



## 標準規格

(単位：mm)

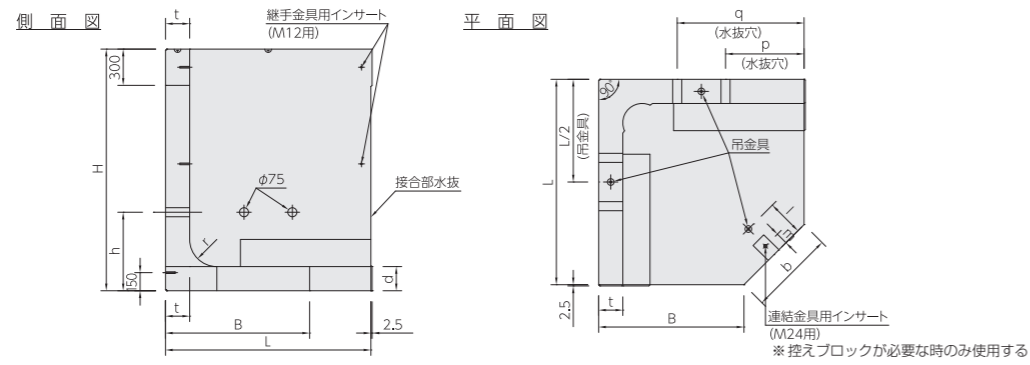
呼び名	H	B	t1	t2	t3	t4	d1	d2	d3	d4	R	h	製品体積 (m <sup>3</sup> )	参考質量 (kg)
1000	1000	750	150	110	110	150	160	110	300	440	150	550	0.427	1020
1250	1250	900	150	105	130	200	170	110	300	580	150	750	0.539	1290
1500	1500	1050	150	105	150	240	180	110	300	720	150	750	0.664	1590
1750B	1750	1300	200	105	160	260	200	110	300	850	225	850	0.878	2110
2000B	2000	1500	200	105	180	280	220	110	300	990	225	850	1.046	2510
2250B	2250	1650	200	105	200	350	230	110	300	1130	225	850	1.215	2920
2500B	2500	1850	250	105	210	400	250	110	300	1260	300	850	1.472	3530
2750B	2750	2050	250	105	230	480	280	115	300	1400	300	900	1.725	4140
3000B	3000	2200	250	110	250	550	300	120	300	1530	300	950	1.979	4750

- ※1 吊治具はメーカー指定のものを使用してください。
- ※2 規格外の高さを使用する場合は、直近上位の規格の擁壁高を準用できます。
- ※3 上記呼び名は、大臣認定上の呼び名から「X」を省略しています。  
例：大臣認定上の呼び名「2500XB」→カタログ上の呼び名「2500B」

# ザ・ウォールⅡ

## 90°コーナー製品

### ● 形状

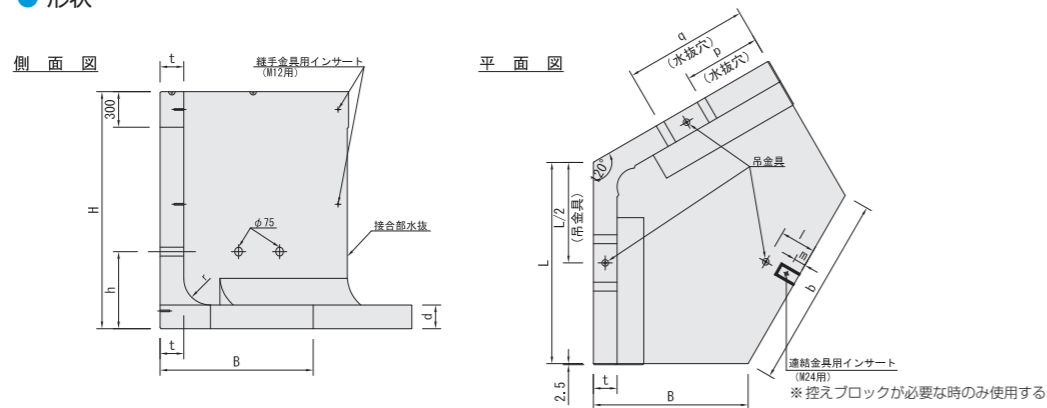


(単位：mm)

呼び名	H	L	B	t	d	h	p	q	r	l	m	b	製品体積 (m <sup>3</sup> )	参考質量 (kg)
C1000-90	1000	1500	750	150	150	550	750	—	150	150	—	1061	0.672	1610
C1250-90	1250	1500	900	150	150	750	750	—	150	150	—	849	0.796	1910
C1500-90	1500	1500	1050	150	150	750	750	—	150	150	—	636	0.916	2200
C1750B-90	1750	1700	1300	200	200	850	850	—	225	300	—	566	1.586	3810
C2000B-90	2000	1700	1450	200	200	850	850	—	225	300	—	353	1.757	4220
C2250B-90	2250	1700	1650	200	200	850	650	1050	225	300	150	71	1.924	4620
C2500B-90	2500	1900	1850	250	250	850	650	1250	300	300	—	71	2.959	7100
C2750B-90	2750	2100	2050	250	250	900	650	1250	300	300	—	71	3.640	8740
C3000B-90	3000	2250	2200	250	250	950	750	1250	300	300	200	71	4.263	10230

## 120°コーナー製品

### ● 形状

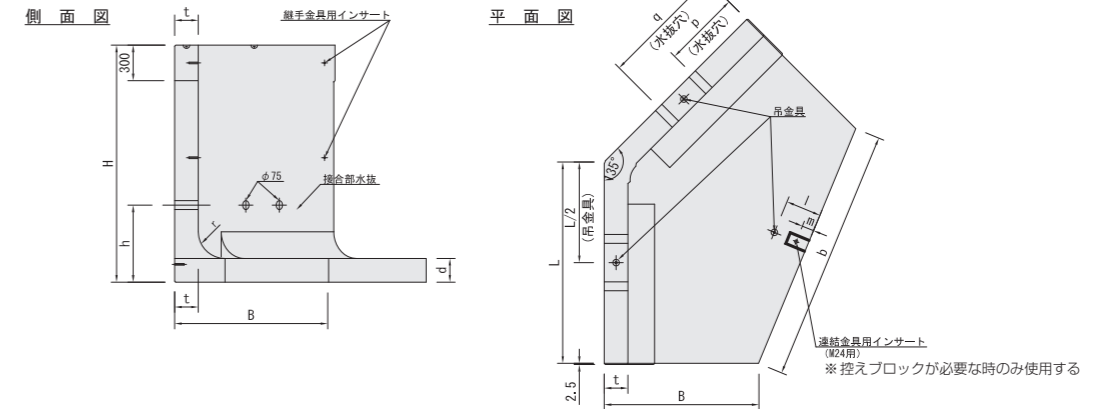


(単位：mm)

呼び名	H	L	B	t	d	h	p	q	r	l	m	b	製品体積 (m <sup>3</sup> )	参考質量 (kg)
C1000-120	1000	1500	750	150	150	550	750	—	150	150	—	1848	0.744	1790
C1250-120	1250	1500	900	150	150	750	750	—	150	150	—	1698	0.888	2130
C1500-120	1500	1500	1050	150	150	750	750	—	150	150	—	1548	1.030	2470
C1750B-120	1750	1700	1300	200	200	850	850	—	225	300	—	1644	1.811	4350
C2000B-120	2000	1700	1450	200	200	850	850	—	225	300	—	1494	2.016	4840
C2250B-120	2250	1700	1650	200	200	850	650	1050	225	300	—	1294	2.229	5350
C2500B-120	2500	1900	1850	250	250	850	650	1250	300	300	—	1441	3.445	8270
C2750B-120	2750	2100	2050	250	250	900	650	1250	300	300	—	1587	4.230	10150
C3000B-120	3000	2250	2200	250	250	950	750	1250	300	300	—	1697	4.940	11860

## 135°コーナー製品

### ● 形状

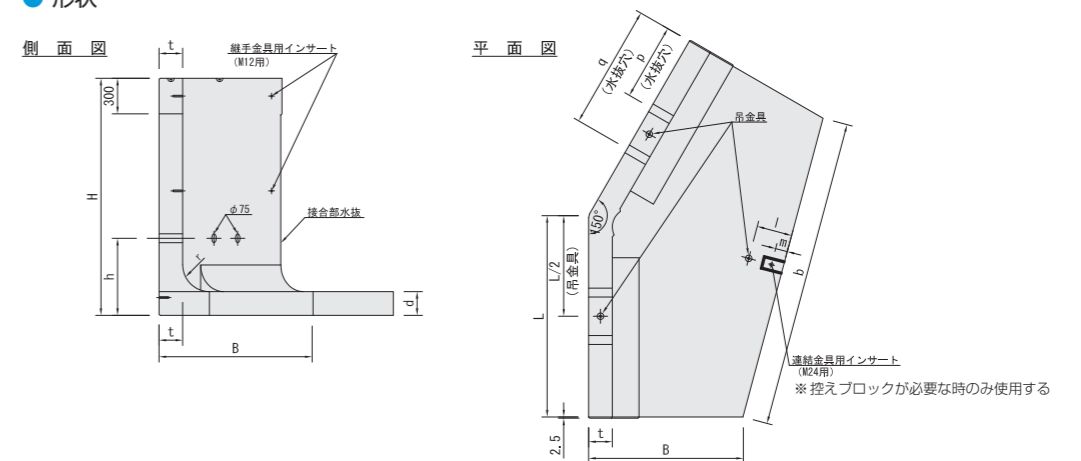


(単位：mm)

呼び名	H	L	B	t	d	h	p	q	r	l	m	b	製品体積 (m <sup>3</sup> )	参考質量 (kg)
C1000-135	1000	1500	750	150	150	550	750	—	150	150	—	2198	0.762	1830
C1250-135	1250	1500	900	150	150	750	750	—	150	150	—	2083	0.916	2200
C1500-135	1500	1500	1050	150	150	750	750	—	150	150	—	1968	1.069	2570
C1750B-135	1750	1700	1300	200	200	850	850	—	225	300	—	2146	1.892	4540
C2000B-135	2000	1700	1450	200	200	850	850	—	225	300	—	2031	2.116	5080
C2250B-135	2250	1700	1650	200	200	850	650	1050	225	300	—	1878	2.354	5650
C2500B-135	2500	1900	1850	250	250	850	650	1250	300	300	—	2095	3.645	8750
C2750B-135	2750	2100	2050	250	250	900	650	1250	300	300	—	2311	4.473	10730
C3000B-135	3000	2250	2200	250	250	950	750	1250	300	300	—	2474	5.217	12520

## 150°コーナー製品

### ● 形状



(単位：mm)

呼び名	H	L	B	t	d	h	p	q	r	l	m	b	製品体積 (m <sup>3</sup> )	参考質量 (kg)
C1000-150	1000	1500	750	150	150	550	750	—	150	150	—	2510	0.765	1840
C1250-150	1250	1500	900	150	150	750	750	—	150	150	—	2432	0.929	2230
C1500-150	1500	1500	1050	150	150	750	750	—	150	150	—	2354	1.092	2620
C1750B-150	1750	1700	1300	200	200	850	850	—	225	300	—	2611	1.946	4670
C2000B-150	2000	1700	1450	200	200	850	850	—	225	300	—	2534	2.188	5250
C2250B-150	2250	1700	1650	200	200	850	650	1050	225	300	—	2430	2.456	5880
C2500B-150	2500	1900	1850	250	250	850	650	1250	300	300	—	2713	3.799	9120
C2750B-150	2750	2100	2050	250	250	900	650	1250	300	300	—	2996	4.660	11180
C3000B-150	3000	2250	2200	250	250	950	750	1250	300	300	—	3208	5.432	13040

防火水槽

宅造擁壁

建築

カルバート

道路側溝

新材料

台車運搬

横引き

推進

沈埋

地盤改良

防火水槽

宅造擁壁

建築

カルバート

道路側溝

新材料

台車運搬

横引き

推進

沈埋

地盤改良

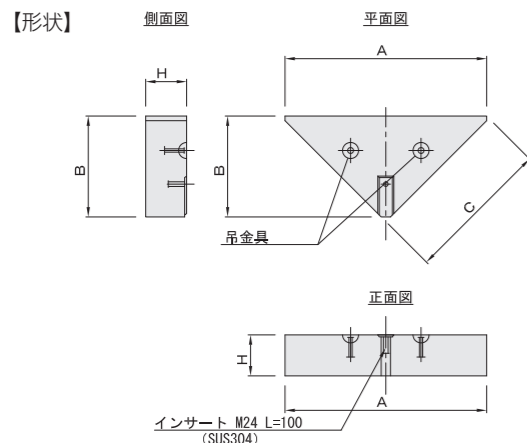
# ザ・ウォールⅡ

## ● 控えブロック形状

コーナー擁壁の滑動防止のために取り付ける部材です。

- ・ H = 2000 以下の製品は必要ありません。
- ・ 土の内部摩擦角  $\phi$  が 30° 以上の場合は必要ありません。

また、条件によっては必要ない場合があります。(控えブロック使用条件表 参照)

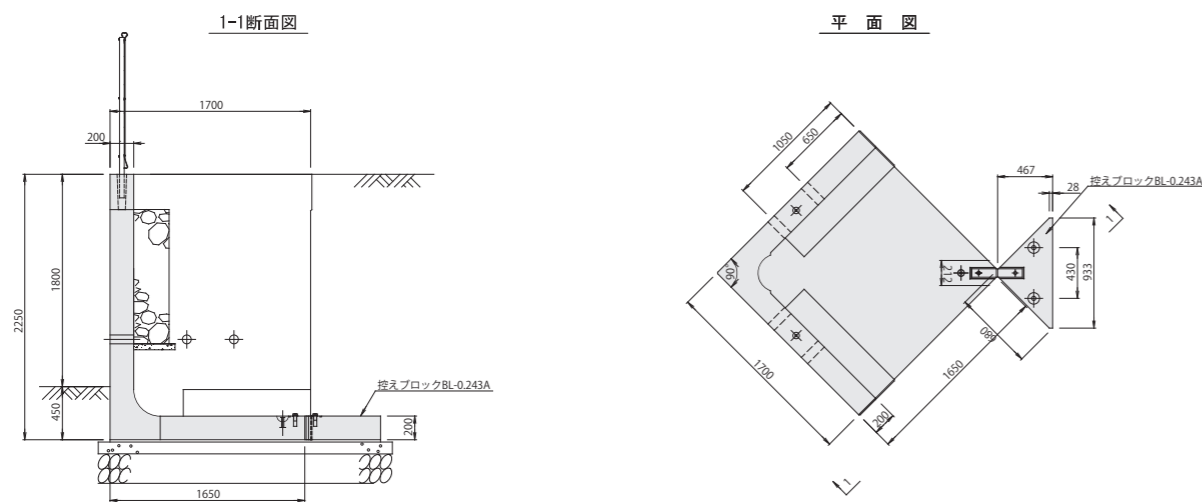


(単位: mm)

控えブロック 呼び名	A	B	C	H	参考質量 (kg)
BL-0.243A	933	467	680	200	117
BL-0.243B	933	467	680	250	146

## ● コーナー部 構造図

コーナー部使用製品 呼び名: C2250B-90  
控えブロック使用製品 呼び名: BL-0.243A



## ● 控えブロック使用条件表

(土の内部摩擦角  $\phi = 25^\circ$  以上  $30^\circ$  未満)

コーナー部 呼び名	コーナー部 角度	使用する 控えブロック
C2250B	$90^\circ \leq \theta < 95^\circ$	BL-0.243A
	$95^\circ \leq \theta < 100^\circ$	BL-0.243A
	$100^\circ \leq \theta < 180^\circ$	—
C3000B	$90^\circ \leq \theta < 95^\circ$	BL-0.243B
	$95^\circ \leq \theta < 180^\circ$	—

※1 「—」は、控えブロックを取り付ける必要がありません。  
※2 土の内部摩擦角  $\phi = 30^\circ$  以上は必要ありません。

## ● 設計上の注意点

控えブロックとは、コーナー擁壁の滑動防止のために取り付ける部材です。

1. H=2000 以下の製品では必要ありません。
2. 土の内部摩擦角  $\phi$  が 30° 以上の場合は必要ありません。

また、条件によっては必要ない場合があります(控えブロック使用条件表参照)。

## ● 基礎地盤に必要な長期許容応力度(必要地耐力)

(単位: kN/m<sup>2</sup>)

呼び名	基礎地盤の内部摩擦角							
	$\phi = 30^\circ$ 以上				$\phi = 25^\circ$ 以上 $30^\circ$ 未満			
	直線部	コーナー部 90°	コーナー部 120°	コーナー部 150°	直線部	コーナー部 90°	コーナー部 120°	コーナー部 150°
1000	70	50	50	60	70	60	60	60
1250	80	70	70	70	80	70	80	80
1500	90	90	80	90	100	90	90	90
1750B	90	90	90	90	100	100	100	100
2000B	100	110	100	100	110	130	120	110
2250B	110	140	120	110	120	160	130	120
2500B	120	150	130	120	130	160	140	130
2750B	130	160	130	130	140	180	150	140
3000B	140	170	150	140	150	200	160	150

※1 コーナー部の任意の角度における基礎地盤に必要な許容応力度は、以下の通りとします。

90° <  $\theta \leq 120^\circ$  の場合、90° と 120° の大きい値

120° <  $\theta \leq 150^\circ$  の場合、120° と 150° の大きい値

150° <  $\theta \leq 180^\circ$  の場合、150° と直線部の大きい値

※2 化粧を施す場合は、上記表の値に 10kN/m<sup>2</sup> を加算してください。

※3 フェンスを設置する場合は、上記表の値に 5kN/m<sup>2</sup> を加算してください。

## 施工歩掛

(10m 当り)

名称	単位	H=1,000	H=1,250	H=1,500	H=1,750	H=2,000	H=2,250	H=2,500	H=2,750	H=3,000
日当り施工量	m	45m	38m	38m	38m	38m	30m	30m	30m	30m
ザ・ウォールⅡ(大地震対応型)	個	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
バックホウ運転 2.9t	日	0.22	—	—	—	—	—	—	—	—
ラフテレーンクレーン 25t	日	—	0.26	0.26	0.26	0.26	0.33	0.33	0.33	0.33
世話役	人	0.22	0.26	0.26	0.26	0.26	0.33	0.33	0.33	0.33
ブロック工	人	0.22	0.26	0.26	0.26	0.26	0.33	0.33	0.33	0.33
普通作業員	人	0.67	0.79	0.79	0.79	0.79	1.00	1.00	1.00	1.00
雑工種	基礎砕石	式	45%	53%	53%	53%	60%	60%	60%	60%
	均しコンクリート	式	74%	87%	87%	87%	98%	98%	98%	98%
諸雑費	式	16%	18%	18%	18%	18%	20%	20%	20%	20%

※1 本歩掛は、平成24年度国土交通省土木工事積算基準を参考にしております。

※2 本歩掛は、運搬距離 10m 程度までの小運搬を含むが、床掘工、埋戻工、残土処理は含まない。

※3 雑工種は、労務費・賃料及び機械運転経費の合計に上表の率を乗じた金額を上限とし計上します。

【基礎砕石】=敷設、転圧労務、材料投入・締め機械運転経費、砕石等材料費。標準敷均し厚は、20cm 以下を標準とします。

【均しコンクリート】=打設・養生・型枠製作・設置・撤去労務、電力に関する経費、シュート・ホッパー・パイプレータ損料、コンクリート、養生材、均し型枠材料費

※4 諸雑費は、敷モルタル、目地モルタル、排水材費用(吸出し防止材)であり、労務費、賃料および機械運転経費の合計に上表の率を乗じた金額を上限とし計上します。

※5 ラフテレーンクレーンは、現場状況によりクレーンの大きさが異なる場合があります。

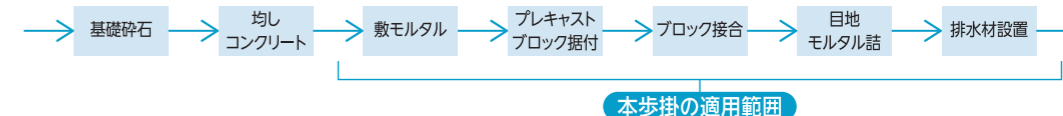
バックホウ : 排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・クレーン機能付 山積 0.8m<sup>3</sup>(平積 0.6m<sup>3</sup>) 2.9t 吊

ラフテレーンクレーン: 排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧式伸縮ジブ型 25t 吊

※6 据付機械は、現場条件により上表に難しい場合は、現場条件に適合した機種・規格を計上してください。

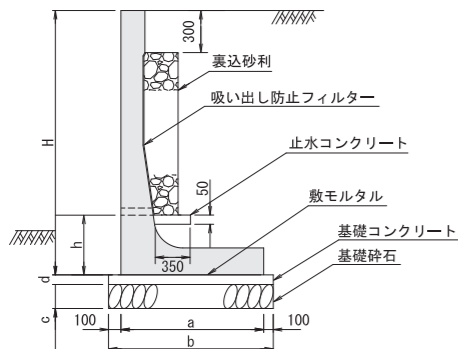
国土交通省土木工事積算基準平成24年度版

プレキャスト擁壁工【P89-91】 ■ 擁壁形式 L型擁壁、逆T型擁壁、側溝付擁壁 ■ 擁壁高さ H=0.5~5.0m



# ザ・ウォールII

## ● 標準施工例



## ● 寸法表

(単位：mm)

呼び名	H	a	b	c	d	h
1000	1000	750	950	200	50以上	550
1250	1250	900	1100	200	50以上	750
1500	1500	1050	1250	200	50以上	750
1750B	1750	1300	1500	200	50以上	850
2000B	2000	1500	1700	250	100以上	850
2250B	2250	1650	1850	250	100以上	850
2500B	2500	1850	2050	250	100以上	850
2750B	2750	2050	2250	250	100以上	900
3000B	3000	2200	2400	250	100以上	950

## ● 使用材料参考表

(10m当り)

名称	単位	H=1000	H=1250	H=1500	H=1750	H=2000	H=2250	H=2500	H=2750	H=3000
製品質量 (L=2000)	kg	1020	1290	1590	2110	2510	2920	3530	4140	4750
裏込砕石	m <sup>3</sup>	0.6	0.8	1.7	2.2	3.3	4.7	6.1	7.7	9.4
吸出し防止フィルター	m <sup>2</sup>	1.1	1.3	1.6	1.9	2.1	2.3	2.6	2.8	3.1
止水コンクリート	m <sup>3</sup>	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3
基礎コンクリート	m <sup>3</sup>	0.5	0.6	0.6	0.8	1.7	1.9	1.9	2.3	2.3
基礎型枠	m <sup>2</sup>	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
基礎砕石	m <sup>2</sup>	9.5	11.0	12.5	15.0	17.0	18.5	20.5	22.5	24.0

## 築造仕様

### ① 土質条件を確認してください

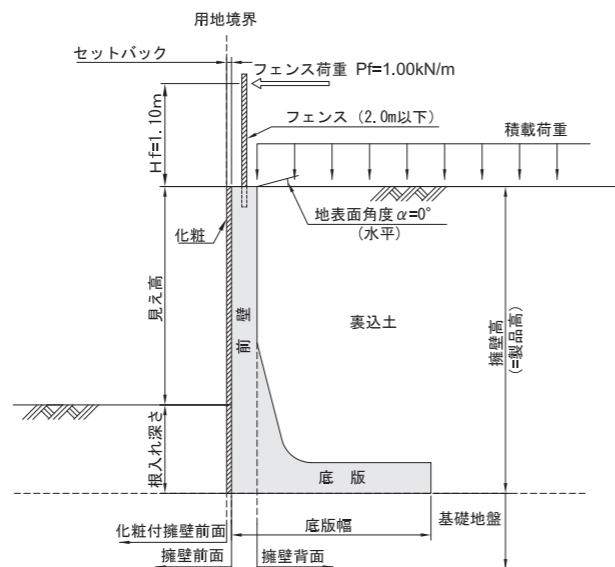
・ザ・ウォールII (大地震対応型) の構造にあたっては、擁壁背面および基礎地盤の土質条件により本擁壁の適用の可否や施工方法等が異なるので、施工場所の土質を十分把握して、認定条件に適合したものであることを確認してください。

### ② 必要根入れ深さ

・宅地造成等規制法施行令第8条4項に則り、擁壁を岩盤に接着して設置する場合を除き、次の通りとしてください。

基礎地盤の土質
土の内部摩擦角 φ=30°以上 φ=25°以上30°未満
必要根入れ深さ
35cm以上かつ擁壁高さの15/100以上 45cm以上かつ擁壁高さの20/100以上

※「擁壁の高さ」は、「見え高」を示す。



### ③ セットバック

・セットバックとは、前壁を用地境界より下げることです。セットバックの幅は、前壁に化粧模様を付ける、前壁のたわみ等を考慮する場合に、協議の上決定してください。

## ● 土の内部摩擦角 φ = 30° 以上

(単位：mm)

擁壁高さH	根入れ深さDf	見え高
1000	350	650
1250	350	900
1500	350	1150
1750	350	1400
2000	350	1650
2250	350	1900
2500	350	2150
2750	360	2390
3000	400	2600

## ④ 基礎及び敷モルタル

### ◇基礎

・標準施工例の通りとします。ただし、基礎地盤の許容応力度が不足していたり、部分的に基礎地盤が悪い場合には、許容応力度を確保できるように置換え工法、地盤改良、杭基礎等の基礎構造を適切に選定してください。

### ◇敷モルタル

・基礎コンクリート上面と擁壁底面との間に隙が生じないように、厚さ2cm程度の空練りモルタルを均等に敷き均してください。最終的に、敷きモルタルが密に充填されているかの確認をしてください。

## ⑤ 埋戻し等

・埋戻し土は、各層毎に均一に所定の密度となるように締め固めし、機械の走行または偏心荷重により、擁壁が損傷を受けないように注意してください。また、雨水、地表水の排水には十分配慮し、埋戻し土の沈下を見込んだ余盛以上の土羽を設けないでください。  
・高さの規格が異なる製品間やコーナー部と直線部間においてプレートによる連結ができない箇所が生じることがあります。この場合、埋戻し時の転圧等により製品のズレが生じないように十分注意してください。

## ⑥ フィルター材及び透水層

### ◇フィルター材

・擁壁背面の土砂が、目地および水抜穴から流出することを防止するために、耐食性の吸出し防止フィルターを各水抜穴の周辺部分と排水用地部分に設置してください。

## ● 土の内部摩擦角 φ = 25° 以上 30° 未満

(単位：mm)

擁壁高さH	根入れ深さDf	見え高
1000	450	550
1250	450	800
1500	450	1050
1750	450	1300
2000	450	1550
2250	450	1800
2500	450	2050
2750	460	2290
3000	500	2500

### ◇透水層

・前壁の背面には砂利等を全面に施した透水層を設置してください。また、浸透水を有効に排水するために、透水層の最下端部分に、止水コンクリートを設置してください。  
・透水層は、砂利等の材料を用いてフィルターが剥れ落ちないように、擁壁の背面に慎重に施工してください。  
・透水層の厚さは、原則として30cm以上としてください。  
・透水層として、砂利等の代わりに透水マットを使用することもできます。この場合、建設省経民発第22号、建設省住指発第138号による「擁壁用透水マット技術マニュアル」((公社)全国宅地擁壁技術協会)に準拠してください。

## ⑦ フェンス設置

・擁壁の天端に直接フェンスを取り付けることができません。地域により設置可能なフェンス高さ、見付率が異なります。  
・フェンスの支柱間隔が2m以下、フェンスにかかる風圧力が1kN/m以下、フェンス自重が50kg/m以下としてください。  
・フェンス支柱の中心は擁壁天端厚中心または前壁前面から75mm、フェンス穴加工範囲は製品両端から165mm以内の部分を除く範囲にフェンスを設置してください。

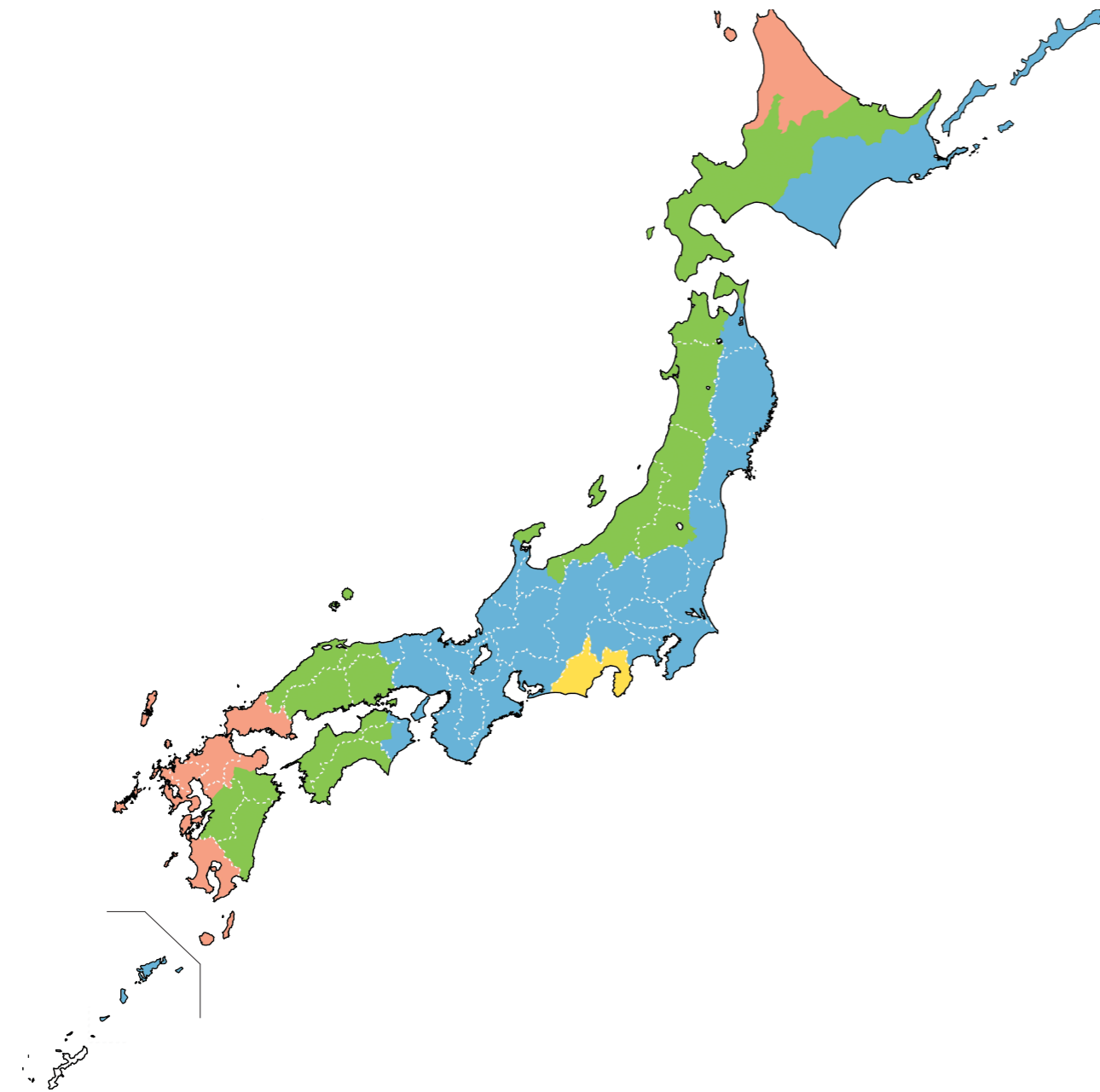
## ⑧ コーナー部の対応

・隅角部の施工は認定範囲内のコーナー製品が使用可能な箇所については、コーナー製品を使用し、それ以外の箇所は、「宅地防災マニュアルの解説・解説編I」に従って現場打ちコンクリート構造としてください。



# ザ・ウォールⅡ

## 中地震・大地震の区分



※地図の色は地域別補正係数Z(昭和55年建設省告示第1793号第1)および設計水平震度を意味しています。(参考)

### 中地震・大地震の区分 「宅地防災マニュアルの解説」より引用

- 中地震(中規模地震動)  
標準設計水平震度  $k_0=0.20$   
供用期間中に1~2度程度発生する確率を持つ一般的な地震動です。一般に震度5程度の地震を想定しています。
- 大地震(大規模地震動)  
標準設計水平震度  $k_0=0.25$   
発生確率は低いが直下またはプレート境界で発生する地震を想定した高レベルの地震動です。一般に震度6~7程度を想定しています。
- 設計水平震度  
標準設計水平震度  $k_0=0.25$  に地域別補正係数Zを乗じて求めます。

地域別補正係数は、建築基準法施行令第88条1項に規定するZの値

標準設計水平震度	地域別補正係数Z	設計水平震度kh	ザ・ウォールⅡ(大地震対応型)適用範囲
$k_0=0.25$	1.2*	0.300	—
	1.0	0.250	0.250
	0.9	0.225	0.225
	0.8	0.200	0.200
	0.7	0.175	0.200

※静岡県の地震地域別補正係数は、建設省告示では1.0ですが、静岡県建築構造設計指針による静岡県地震地域係数によって1.2と定められています。

## 施工事例



防火水槽

宅造擁壁

建築

カルバート

道路側溝

新材料

台車運搬

横引き

推進

沈埋

地盤改良

防火水槽

宅造擁壁

建築

カルバート

道路側溝

新材料

台車運搬

横引き

推進

沈埋

地盤改良